

---

# 雨食

生美

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨食

### 【コード】

N0985P

### 【作者名】

生美

### 【あらすじ】

雨の日の話。風邪をひきそうです。

次は天気予報です。

\* \* 市の今日の天気は晴れのち雨、ところにより激しい雷雨となるでしょう。上空の気圧は不安定ですので、夕立対策が必要です。また\* \* 地区には大雨警報が出されています。近隣の皆様は災害には十分ご注意ください。

ぽつりぽつりと振りだした雨は、次第に激しさを増していき、葉子は慌ててバス停へと駆け込んだ。小さな屋根の下でほっと一息つくのと、濡れた前髪を指先で掻き上げて片耳に掛け、そっと額を拭いた。今日は雨が降るとは聞いていたが、こんなにも酷くなるとは思っていなかった。

バス停内を見回すと、青いベンチが中央に一脚だけ置いてある。そこには既に先客がいて、黒い服を着込んだ男が一人、ベンチの端に座っている。

葉子は丁度その反対側に腰を下ろした。

湿り気を帯びた空気が山野を包み、空から落ちてくる水滴が車道を優しく洗っていく。薄墨色をした雲が一面に垂れこめている。

「・・・急に崩れてくるなんて、ついてないですね。」  
ぼそぼそと呟くような陰気な声で、男が葉子に話しかけてきた。声を掛けながらも男の視界は彼女とは全く別の方向を捉えている。そこには何もない地面があるばかりだった。

「本当、ついてない。」

困ったように彼女はくすりと笑った。濡れそぼった白い半袖のブラ

ウスが彼女の肌に張りついて、うつすらと透けて見える。薄布の上からでも、しっとりとした張りのある肌だと判る。男は彼女を一瞥し、すぐまた足元へと視線を戻すと、コートの襟をしっかりと止めた。

それ以降、互いに言葉を交わすことなく数十分経った。しかし、バスは一向に現れる気配がない。

男は両手を頻りに擦り合わせている。葉子は少し苛立ち始め、先程から腕時計を何度も確認していた。

「まだかしら？」

「・・・そうですね。この天気ですから、遅れているのかもしれない。」

男が静かに答える。

「ひょっとして事故でもあったのかしら？確か警報が出ていたわ。」

「大丈夫ですよ。」

雨脚は途絶えることなく、さあつという音が辺りに長く尾を引いている。

葉子は小首を傾げながら、外の景色を見守っていた。

そして、

「迎えに行った方がいいかしら。」

と独りごちると、ゆらりと立ち上がった。

それを聞いた男はふと顔をあげて、彼女を真っすぐ見据えた。

「俺はこの通り無事だから・・・だからもう行かなくていいんだよ。」

凍てついた体から絞り出すような悲しい声だった。

男がどんなに呼びかけようとも、彼女は同じ情景を繰り返すばかりで、もうこれで何度目かも判らない。

漸くバスが辿り着いた。

屋根の上には薄い雪層が重なっている。油圧器を軋ませながら昇降口が開くと、そこから運転手がわざわざ降りて来て、男の前に立った。

「大変お待たせして、申し訳ありません。峠が大雪でして・・・寒かったでしょう?」

男が山頂に目をやると、その辺りは白い靄に覆われたようになっていた。

この雨は、上空では雪になっているようだ。

「いや、俺は客じゃないんだ。ここで雨宿りをしていただけでね。」  
運転手は一瞬怪訝そうな顔をしたが、そうですか、と頷き、そそくさと車に乗り込んでドアを閉めた。

ゆっくりと発車するバスを見送りながら、男は白い息を吐いた。

本日、\*\*県\*\*地区で山崩れが発生し、付近を走行していた森見葉子さんの運転する乗用車がこれに巻き込まれました。救助隊の活動によつて、土砂の中から森見さんは発見されましたが、残念ながら、その場で死亡が確認されました。森見さんは、隣町まで友人を迎えに行く途中で、今回の災害に巻き込まれた模様です。ご冥福をお祈りいたします。

さて、次のニュースです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0985p/>

---

雨食

2011年10月8日05時18分発行